

長野県埋蔵文化財ニュース

No. 8

1984. 3 .

(財)長野県埋蔵文化財センター

松塩筑調査事務所 〒399-07塩尻市広丘高出1977 ☎0263-54-2150

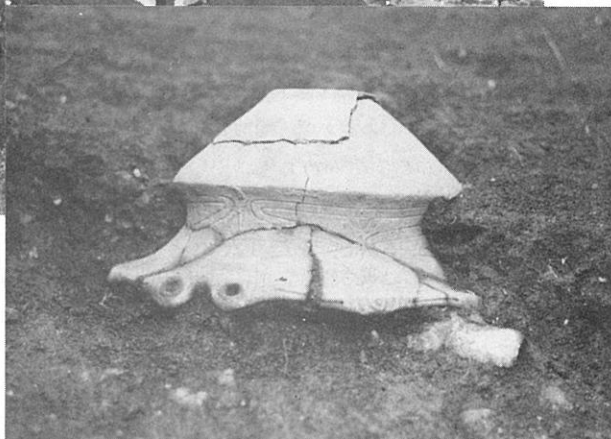


中央道長野線 御堂垣外遺跡

——塩尻市柿沢——

写真上 3号敷石住居址

下 1号土壌の土器出土状況



下 1号土壌の土器出土状況

御堂垣外遺跡は、塩尻市柿沢地籍にあり、塩尻市環境センターの東約200m、国道20号線と四沢川にはさまれた陝隘な南斜面の日当たりのよい場所に立地している。

昭和58年10月下旬から12月中旬にかけて発掘調査を行い、住居址6軒・土壌7基が発見された。住居址は縄文時代中期後半のもの1軒、同後期前半の敷石住居址4軒、時期不確定のもの1軒である。

写真上は3号住居址としたものである。北東から北西にかけて大きな石を縁石状に並べた礫堤がめぐり、南も大きな石が一部直線状に並び、そのプランは半円形になる。規模は東西6.5m、南北5.0mである。中央

やや南寄りに方形石囲いで埋甕を持つ炉が検出され、炉の南には大きな平石がおかれて入口部を形成している。

また、炉の北奥壁には立石と考えられる大石が斜めの状態で検出された。一方、礫堤の内側にも大きな礫が一見不規則にあり、その性格をどうとらえるか今後の課題となっている。遺物は掘ノ内期の深鉢・浅鉢・注口土器や打製石斧・磨製石斧が出土している。

写真下は1号土壌南端より出土した浅鉢で、出土状況から甕被葬に使用したものと思われ、均整のとれた堀ノ内期の佳品である。

(調査研究員 市沢英利)

昭和58年度

中央道長野線埋蔵文化財発掘調査を終わるにあたって

調査第一部長 神 村 透

昭和58年度は岡谷市内6遺跡の調査を終了する予定であったが、用地買収が進展しなかったため、岡谷市内4遺跡、塩尻市内2遺跡の調査となった。計6遺跡の調査結果をまとめてみると、

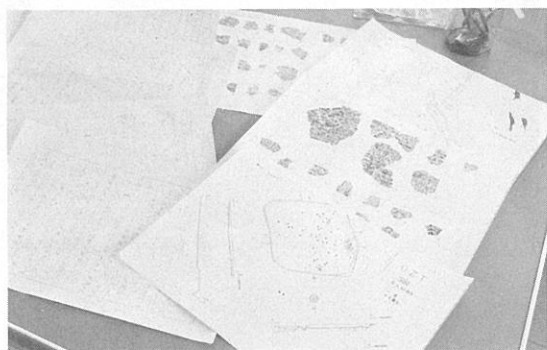
西林A遺跡 塩嶺山地から派出した尾根上にあって57年には西側斜面を調査し、58年は東側斜面を調査した。縄文時代前期から弥生時代中期の遺物を得、遺構としては焼土、土壌が検出された。焼土は弥生時代中期条痕文土器の時期で、打製石斧には接合例がいくつもあり、台石の存在から石器製作址と考えられる。

膳棚B遺跡 山麓の水田地帯にあって、中島A・柳海途遺跡と接している。塚間川旧河床に接した微高地に遺構が見られた。縄文時代早期から近世までの遺物が得られ、遺構としては住居址と土壌が検出された。住居址は4.7×4.6mの方形プランで、早期末の絡条体圧痕文土器が出土し、この時期の住居址としては県内初見である。絡条体圧痕文土器に東海系土器が少量伴出していること、玦状耳飾も見られ、この種の玉の初現を知る貴重な資料である。また中世の木札も注目される。

中島A遺跡 57年に塚間川をはさんだ小台地部を調査したが、58年は西側の低地を調査した。この低地は活断層によって生じた長さ80m、巾25m大の池状の湿地であった。断層は地学の面からも貴重な観察結果を見せてくれた。湿地の堆積層からは木材、種子、昆虫などの自然遺物が豊富であった。これらについてはそれぞれの専門家に鑑定を依頼してある。遺物は縄文時代早期から平安時代のものであり、湿地土層部の平安時代層からは加工材が検出されたが、下層からは加工

痕のあるものは検出されなかった。池の東側は1m強の断層崖があって、台地からの遺物投げすてが見られ縄文時代晩期の遺物が大変な量であった。池西側の池縁には配石や小形壺が埋めてあり、弥生時代中期庄の畑武土器であった。さらに下層からは縄文時代後期の遺物が出ているが、その調査は59年に持ちこされた。後期土器の中には新潟県地方の三十稲場式土器がある。

柳海途遺跡 塩嶺山麓の東面傾斜地にあって、中島A遺跡に接している。調査前は集落の存在が予想されたが、遺跡の堆積土を見ると崩落土であって、不安定



調査研究員は報告書作成のため、遺跡の実測図、土器拓本整理などで多忙をきわめ、そして執筆にかかる。

な傾斜地であり、集落を確認できなかった。遺物は散在しており、縄文時代から平安時代のものであった。遺構としては中島A遺跡の池に接する平坦地から縄文時代晩期の土壌が検出された。

北山遺跡 塩尻市柿沢地区にあって、扇状地縁に位置している。湿地状の堆積土で遺物包含層は薄く、縄文時代、弥生時代、江戸時代の遺物をわずかに得たのみであった。

御堂垣外遺跡 台地縁の南面する傾斜地で、縄文時代～平安時代の遺物を得、遺構としては切りあう住居址と土壌を検出した。住居址は縄文時代中期後半の入口部に埋襲をもつもの1軒と、一部敷石をもつ後期の住居址5軒を検出し、特に敷石住居址はその切り合いや、河原石を使用した壁や入口部の施設などが注目される。土壌には後期の襲被葬と思われる完形の浅鉢をもつもの、古墳時代の小形埴を副葬したものがあつた。

下り林遺跡 道路敷の一部掘りさげがあつて、その部分の遺物採取を行った。縄文時代早期から平安時代にかけての遺物があり、この遺跡の重要性を知った。



冬期間は室内に於ての遺物の整理



〔建物の概要〕 当館は、鹿教湯温泉や松本方面に通じる国道254号線に面している。敷地面積は4,623㎡、建物面積は921㎡である。博物館は2階建て、1階は第1展示室(183㎡)・収蔵庫(144㎡)があり、2階は第2展示室(147㎡)・特別展示室(147㎡)がある。

昭和57年7月10日建物工事着工し、昭和58年11月6日開館した。

〔展示〕 丸子町を中心とした依田窪地方の歴史文化を扱うことを目的とし、人文科学系歴史博物館として位置付けている。常設展示の主要テーマを「丸子町を中心とした依田窪地域の開発史」とし、依田窪地域に営まれた人々の生活の歴史と明治～昭和初期にかけて丸子町発展の基礎となった近代器械製糸のあゆみが理解できるように展示されている。また、展示の特色は、展示替えが容易にできるようにジオラマ等を極力使わず、展示物とパネルで説明する展示方式をとっていることである。

第1展示室は、考古資料を中心とした展示になっており、旧石器時代から鎌倉時代までをテーマを決めて通史的に展示している。

旧石器時代のコーナーは「旧石器時代と和田峠の黒耀石」と題して和田峠の男女倉遺跡出土の遺物などを展示している。

縄文時代は「縄文時代と深町遺跡の呪術」と題し、深町遺跡から出土した膨大かつ質の高い遺物を中心に展示している。

弥生時代は、依田窪でも遺跡の数がごくわずかなので展示されていない。

古墳時代のコーナーは「古墳時代と社軍神遺跡の玉作」と題して県下でも珍しい玉作遺跡の出土遺物を中心に展示している。

奈良時代と平安時代は「奈良・平安時代と諏訪田遺跡の官衙的遺構」と題して掘立柱建物址が検出された諏訪田遺跡の遺物と深町遺跡の遺物などを展示している。

鎌倉時代のコーナーは「中世城館跡と地域開発」と題して鎌倉時代の遺物や水田開発の手順等を展示している。

また、中央には風葬に似た独特な葬所跡である鳥羽山洞窟と岩谷堂洞窟の遺物を展示している。なかでも鳥羽山洞窟の遺物は、二重甕・石釧・琴柱形石製品など逸品があり、ぜひ見学されたいコーナーである。

第2展示室は、明治22年創業の依田社を中心とする丸子町の近代器械製糸業の歴史を製糸業発展の基盤・初期の製糸業・全盛期の製糸業・生糸のできるまで・製糸労働者・製糸業の衰退と現在の丸子町の各項目に分けて展示している。この展示室では、製糸関係の資料を展示するだけでなく、製糸業全盛期のフィルムを再生してビデオで見せたり、当時の女工さんの人形を置いたりして丸子の器械製糸のしくみを理解できるように陳列している。特に、依田社のアメリカ向けのカatalogやフィルム等の貴重な資料も展示しているので高覧いただきたい。

〔特別展〕 常設展示に関する分野のみならず、民俗や美術などの様々な郷土資料の収集・保管・研究を行っており、これらの資料や研究の成果は、事業計画に基づいて随時開かれる特別展で発表する。

〔文献等〕 展示内容については『丸子町郷土博物館展示解説書』を参照されたい。その他『深町』、『三角』、『中城南』等の発掘調査報告書と丸子町の条里遺構を調査した『地域開発史』等がある。

所在地 小県郡丸子町大字東内2,564の1(TEL 02684-2-2158)

休館日 毎週火曜日の午後・水曜日

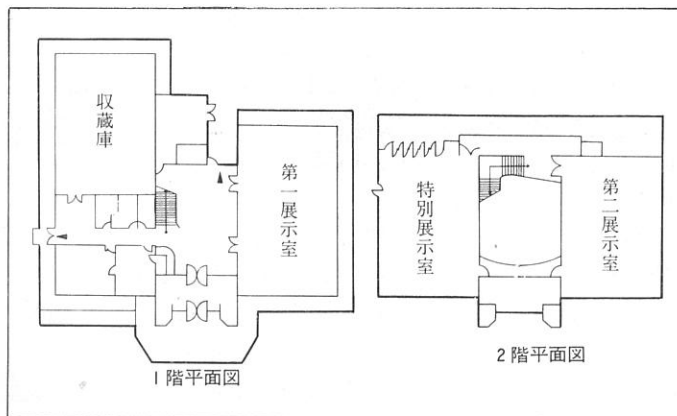
祝日・年末年始(12月29日～翌年1月3日)

入館料 一般100円・小中学生50円

団体(10人以上)一般80円・小中学生40円

※特別展は別料金

交通 信越線上田駅発千曲バス・鹿教湯温泉行
博物館下車徒歩1分



博物館平面図

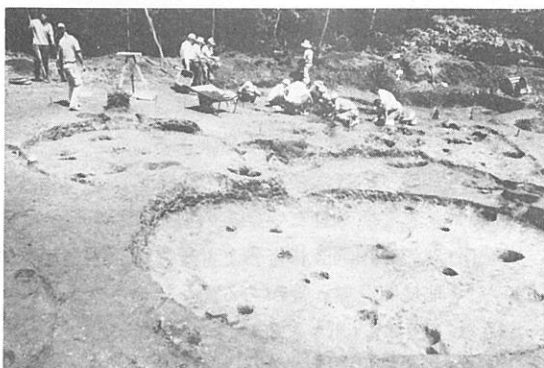
小川村筏遺跡の第二次調査

小川村教育委員会

筏遺跡は上水内郡小川村大字小根山に所在する。昭和56年5月に地形測量及び範囲確認調査、57年8月を中心に第1次調査、そして昭和58年7、8月にまたがって第2次調査を行ってきた。

その結果、第1次調査においては縄文中期末の住居址を1、平安時代末葉の住居址1を検出した。そして、第2次調査においては、縄文中期の住居址5、平安時代末葉と思われる住居址1などを検出されるに及んで、1・2次を合わせると、縄文中期の住居址は6、平安時代住居址は2である。他にピット群や、ロームマウンドなどが認められた。

縄文中期の住居址で特に注目されるのは、第4号住居址と第5号住居址である。



筏遺跡の発掘調査風景

第4号住居址は、床面を黒色土の中に持っているもので、竪穴はほぼ3.5mの円形プランである。もちろん黒色土中に竪穴を掘り、その床面は地山のローム面にまでは達していない。そこで1~1.5cmのローム質粘土で張り床をして床面の調整をしている。中央にやや凹んだ火床があり、これが炉と思われる。東、西の壁面下に小形の埋甕が行われていた。共に胴下半のみで、全器形は明らかなでないが、隆線の垂下と小さな綾杉沈線文の施されたもので、北陸の一部から中央山地に分布する中期末葉の土器と見られるものである。

第5号住居址も小ぶりで、平面プランは3.5~4.0mのやや楕円形である。この住居址はしっかりと地山のローム面に掘り込んでつくられていて壁外柱穴、そして壁内の周溝などもしっかりとしている。掘り込んだ地床炉である。この住居址の特徴は、その床面の通常ならば柱穴がめぐると思われる位置に、第4号住とほ

ぼ同様な時期の小埋甕が等間隔に8点めぐらされていたことである。正位で、すべて胴下半のみであって、中には底部も欠失しているものがある。こうした極めて特異な住居址は一体どのような意味をもつものだろうか。大方の教示を受けたいところである。

他に第2号住居址は楕円形プランの埋甕炉をもつもの、第3号住居址はほぼ直径5mの円形プランで出入口と思われるつくり出しを持つもの、第6号住居址は4.5mの円形プランであるが、その上にほとんど重なった平安時代住居址のために破壊されてしまったものもある。

平安時代の住居址の出現はまったく予想しなかったものであったので驚かされた。第1号住居址はほぼ4mの方形プランで、南西の隅に石組みのカマドがつくられていた。東濃系で末期の灰釉陶器の碗を伴ったのは注目される。第6号住居址もこの時期のものであるが、1号址によって切られているので明らかに古い。しかし石組のカマドが南東の隅にくるもので時代的には大差のないものと言えよう。

標高790m、戸隠に隣接する多雪地帯。山中の湿原をめぐる丘陵上の遺跡は、安曇野、善光寺平の中間地点、八ヶ岳~妙高山につながる中央山地の中央という立地も加えて、遺物群の多様さに更に注目させられる。

塩尻市柿沢東遺跡

塩尻市教育委員会 鳥羽嘉彦

柿沢東遺跡は、塩尻市側から塩尻峠に向かう国道20号線の登り口にあたり、田川扇状地のほぼ中央にみられる尾根状の微高地を占地している。

昭和58年度から開始された塩尻東地区県営ほ場整備事業に伴い、初年度は4遺跡が対象地域にかかり、工事に先立ち緊急発掘調査が実施された。このうち柿沢



柿沢東遺跡の遺構の重複状況

東遺跡の調査は10月20日～11月19日まで、約1,500㎡の範囲で行われた。

検出された遺構はすべて縄文中期後葉に属し、竪穴住居址が23軒、小竪穴130基、その他ピット多数である。これらの遺構は尾根中央部に小竪穴群を設け、その周囲を取り囲むように住居址を配置した、該期に一般的な集落形態を呈している。住居址は伴出土器から曾利Ⅰ期が9軒、Ⅱ期が8軒、Ⅲ期・Ⅳ期がそれぞれ2軒、Ⅴ期が1軒であり、この構成比から推察すると本集落はⅠ期を初現期とし、それからⅡ期にかけて最盛期を迎え、以後衰退し、Ⅴ期を終焉とする一生に概観される。位置的には初期のものが外縁に位置し、次第に集落内部へ構築が移行していく傾向が認められる。またⅠ期の住居址が比較的重複が少ないのに対し、Ⅱ期は重複が特に著しい。おそらく当初は住居を構築する占有の規律が弱かったが、次第に自由な土地利用ができなくなった社会的背景があるものと推測される。炉は保存良好な石囲い炉が多く、その形態には、Ⅰ期、長方形あるいは楕円形を呈し、掘り込みなし、Ⅱ～Ⅳ期：円形大型で掘り込みは深い、Ⅴ期：方形小型で掘り込みは浅い、という変遷が認められる。また住居面積に対する炉面積の比率も、Ⅱ～Ⅳ期が特に大きな数値を示し興味深い。住居址に付随するものとして多量の焼土が検出された。この中で特に床面とレベルを異にし、しかも炭化物を伴わない、所謂焼失家屋と考え難い焼土塊が注目された。類似の報告例は、船霊社11、14号住、小丸山6号住、平出ヲ号住などにもみられるが、これらはいずれも多量の土器を伴出しており、焼土の性格を捉える上で重要な手掛かりとなろう。小竪穴の性格については第3号小竪穴から出土したヒスイの大珠が、墓址の可能性を伺わせるものとなった。従って中央広場に墓域を設定し、周辺に居住地区を配した集落が想定される。また本遺跡から唯一検出された敷石住居址（第4号住：曾利Ⅴ期）はその中間地点に位置しており、墓域と居住区との間に極めて重要な役割を果たしていたものと考えられる。

石器は打製石斧・凹石を中心に石鏃などが出土しているが、概して出土量は少なく、この時期の一般的傾向があてはまる。ただ松本平においては、当該時期も一概に少ないとはいえない傾向があり、当地域が石器使用に関しては峠を越えた岡谷・諏訪地方とむしろ関連が深いことを示唆しているのかもしれない。

以上のように本遺跡の調査結果は、当初の予想を上回る多大な成果が上がり、特に該期の集落を把握する上で、また松本平と諏訪盆地の文化の流通・融合を踏

まえていく上で、極めて貴重な遺跡となろう。なお、本遺跡の調査報告書は3月末に刊行予定である。

国指定^{いんだて}成立遺跡の範囲確認調査

東部町埋蔵文化財発掘調査団

調査主任 塩入 秀敏

1 調査の目的

小県郡東部町成立遺跡は、海拔770m余の大石沢川扇状地扇頂部に位置する。昭和5年に敷石を伴う住居址が発見され、昭和8年文部省の指定史跡となり、昭和25年の文化財保護法制定後も特別史跡に指定され今日に至っている。今回、周辺の畑地一帯に圃場整備計画がもち上がり、放置すれば435㎡の指定部分も含めて遺跡全体が破壊されてしまう恐れが出てきた。このため、保護措置を検討する上で遺跡の正確な範囲を把握する必要が生じ、昭和58・59年度の2年度にわたる範囲確認調査を実施することになった。

2 調査の結果

(1)遺 構 5軒の住居址と多数の土壌が検出された。このうち、2号住・3号住は敷石住居址で、2号住は縄文時代後期堀ノ内式期に、3号住は加曾利B式期に属する。また1号住・4号住・5号住は中期後葉加曾利E式期に属するものである。調査の性格上、いずれも完掘には至らず埋め戻したので、その形状、規模等は不明であるが、4号住は石囲い炉と北西壁際に壇状の石敷きをもつ。土壌は^{おがた}夥しい数になるが、特に3号住周辺の土壌は加曾利B式期のもので、大量の土器と石棒などのほかに多くの骨片を出土している。

(2)遺 物 範囲確認のためのスポット掘りであったにもかかわらず、土器を中心とした非常に多量の遺物が出土した。土器は縄文時代中期後葉加曾利E式土器から後期後葉堀ノ内式土器、同中頃の加曾利B式土器が



成立遺跡第2号住居址敷石

出土した。特に5号住からの加曽利EⅡ式に比定される大量の土器は住居址出土の良好な資料となり得るのである。また、2号住出土の堀ノ内Ⅱ式の土器群は上田小県地方の後期土器では最良のものであろう。3号住脇の土壌群中からは加曽利BⅠ式の典型的な注口土器が出土している。土器に比べると石器は遜色があるかにみえるが、5号住からは10数本の打製石斧が出土し、特筆されるものである。

3 まとめ

今回の範囲確認調査の結果、以下のことを把握できた。成立遺跡は、来年度調査の北西部分を除いて、北東—南西約200m、北西—南東約30mの範囲を持ち、分布調査による知見を加えると、小諸市境の小川を越えて南東に更に100m伸び、未調査の北西部分を含め推定約60,000㎡の面積をもつ大遺跡である。そして、その所属時期は縄文時代中期後葉から後期中頃にかけてであり、小諸市郷土遺跡・寺の浦遺跡と立地・時期とも共通する。このことから、東信火山群山麓の海拔700m前後にベルト状に存在する該期遺跡の一つであるといえる。近年の開発事業、特に圃場整備事業によって大遺跡でもその全域が破壊されてしまうことが多い。このような時、極めて貴重な遺構・遺物をはかりしれない程埋蔵している成立遺跡は、保存状態が良いだけに一層重要である。東部町のみならず小諸市との協力による行政区画を超えた保護行政が望まれる。

松川町前田遺跡

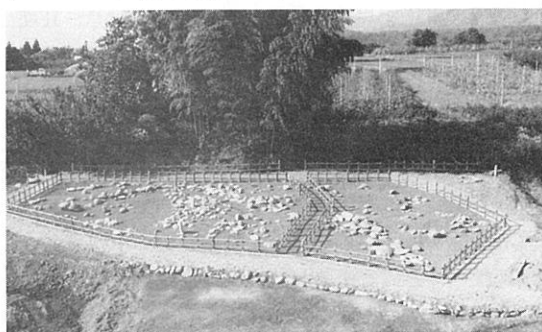
松川町教育委員会

酒井幸則・桜井弘人

下伊那郡松川町の計画する農村総合モデル事業の一環として松川町生田部奈宮の久保地籍に所在する前田遺跡の発掘調査が同町教育委員会によって実施された。発掘調査は松川町教育委員会の編成する調査団（担当者酒井幸則）によって、昭和58年4月10日から同9月15日まで、およそ65日間にわたって実施された。調査の結果、縄文中期終末から後期はじめにかけての配石遺構をはじめ縄文中期住居址14棟、弥生後期住居址1棟、各時期の小竪穴97基、縄文中期および近世の建物址4棟以上、近世井戸址1基などが検出され、他に縄文早期押形文土器および縄文晩期条痕文土器出土地点も調査された。主要調査区の基本層序は、耕土層・水田床土層・水田客土（黒色土）層・褐色土層・ローム層の順で、特に近世に至ってからの水田造成による客

土層が厚く、この中に各時期の遺物が多量に包含されていた。検出された遺構の大部分はこの水田造成によって著しく破壊されていた。

配石遺構は水田造成によって南部と西部が破壊されており、およそ半分ほどの残存である。残存する範囲は10.5×19.5mほどである。平石による弧状あるいは環状を呈する列石、また帯状の列石、平石あるいは大きな石による組石状の配石、石囲状配石、小礫や角礫による円形や不整形の集石によって構成され、集石部には石柱とみられる棒状礫が多い。下部遺構として明瞭なものに巨大な石柱下に長楕円形の小さな竪穴があり、内部に石棒を直立させ、北隅底面に底を抜いた石皿を伏せていた。配石遺構より検出された遺物には縄文中



保存された配石遺構

期中葉・同後半、縄文後期土器と、石棒・石皿・凹石・多孔石・丸石・砥石の他に石錘・打製石斧・磨製石斧・横刃形石器があり、後期土器には称名寺式糸土器と堀ノ内式土器、石器には石皿や凹石、石錘などに後期的色彩の濃厚なものが多い。配石遺構の周囲には97基の小竪穴があるが多時期にわたっている。

14棟の縄文中期住居址は配石遺構をとりまく状態にあるが、中葉1棟、後半13棟で、うち2棟は配石遺構下面にある。配石遺構との間に多少の時間差がある。住居址は1棟を除く13棟は水田造成によって破壊されており、柱穴・周溝・炉址など残存部の検出で遺物はきわめて少ない。中期後半の住居址をみれば末期の結節縄文段階の住居址を欠いており、配石遺構との間に断絶を感じさせている。

弥生時代の住居址は座光寺原式期のもの1棟のみであり、遺物はほとんど出土していない。

他に縄文時代の建物址2棟はどうか配石遺構に接しており、また近世の屋敷跡なども検出されている。

検出された配石遺構は地元部奈住民の熱意と松川町当局の努力により現地に復元保存されたことはこの上もない喜びであった。なお、報告書は今年度中に刊行されるので詳細は報告書を参照されたい。

茅野市における埋蔵文化財保護関係事業の現状

茅野市教育委員会社会教育課 鵜飼 幸雄

埋蔵文化財保護 茅野市は東の八ヶ岳連峰から西は諏訪市に接し、南は原村から西南部の上伊那郡に接する265.85km²を行政域としている。遺跡はこの広い市域内に現在のところ199か所が知られており、その分布は山地部から湖盆低地部まで全域にみられる。

こうした遺跡分布の状況と開発等の状況を合わせてみると、山地部においては観光レクリエーション地域として大型資本による別荘・ゴルフ場用地等の開発が進み、山麓部の上部では生産緑地帯として大型圃場整備事業が進められつつある。また、山麓部の下部では住宅用地としての造成や工場団地の造成が進行しており、市街地周辺は各種公共事業が進むと共に再開発も計画されている。

このような状況に対処する方法として、教育委員会では茅野市遺跡分布図を作成して周知徹底を図ってきた。公共事業や民間の宅地造成等、これを基にチェックし、遺跡周辺も含めてできるだけ現地協議と試掘を行うようにしている。しかし確認されている遺跡以外の場所での開発行為等についてはチェックできないものもあり、発掘されないで消えていく遺跡もあるものと思われる。また、山地部の観光レクリエーション地域での開発については精緻な分布調査がなされていないこともあり、遺跡の存在は当然予測されるのだが、ほとんど目が行き届かないでいるのが実情である。そうした意味においても分布調査を徹底し、更に分布図の充実を図っていかなければならないと考える。

一方、遺跡の発掘調査費について、茅野市では昭和55年12月議会において、発掘調査の費用負担を基本的には起因者に求める立場を明確にしている。このため市単独事業等の公共事業に伴う発掘調査については比較的予算化しやすいが、民間業者や個人が起因者となる場合は発掘費負担厳しい状況も生じ、必ずしも十分な調査がなされているとは言えないのが実情である。

現在茅野市は諏訪全域からみると、その地理的位置から諏訪湖周縁圏のベットタウンの様相をもつ一方、また自立型自治体を目指しての施策が積極的に進められてきている。こうした様相は、住宅の増加と工場団地の造成等に具体的に現われてきている。来年度もこうした状況の中で、山麓部での約350,000m²の工場団

地造成予定地内の試掘や圃場整備に伴う発掘調査が予定されている。更にこの外にも緊急の調査がは入らないとは言いきれず。学芸員や専門職員が増員されないことと共に、本市の埋蔵文化財保護もまた厳しい状況の中にあると言える。

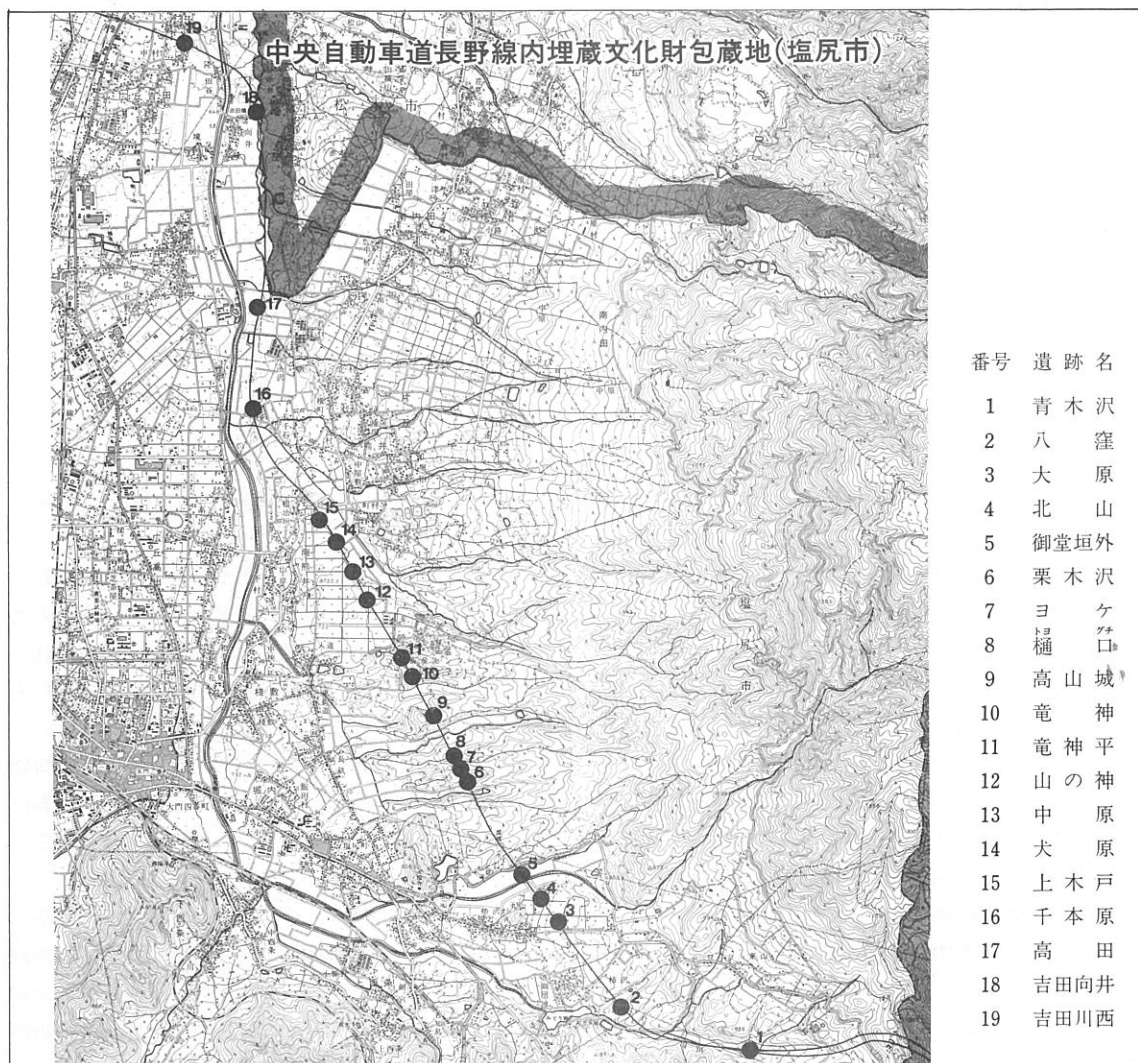
尖石古代公園整備 尖石遺跡は昭和27年に国の特別史跡の指定を受けたが、その後遺跡地は公有化されずに至っている。一方、昭和54年に尖石遺跡の北に隣接して建設された尖石考古館への入館者は年々増加し、昨年は60,000人近い入館者があり、今後更に増加が予測されている。このため、尖石遺跡の保存と共に考古館周辺の古代公園化は急務とされており、尖石古代公園整備として本格的に計画が進められていく段階にある。

総合博物館建設 茅野市は昭和58年3月に総合博物館の基本構想についての答申を受けた。答申の内容は多岐にわたるが、博物館は自然科学系と人文科学系を合わせもつ総合博物館として位置付けられており、このうち事業の中の調査・研究については、「八ヶ岳とその山麓」を、市域を越えて広く総合的に学術調査研究することを掲げている。現在は展示計画の検討と資料の収集が進められており、考古関係の展示には市内の発掘調査の成果も盛込まれて行く予定である。

市史編さん 昭和54年度から開始され、昭和61年度まで8か年で上・中・下・別巻の4巻を刊行する計画で現在進められている。このうち上巻は原始古代編であり、考古学関係は委嘱された6名の編さん委員の先生方が近々の発刊を目指して原稿を執筆中である。



昭和57年調査 構井・阿弥陀堂遺跡現地説明会

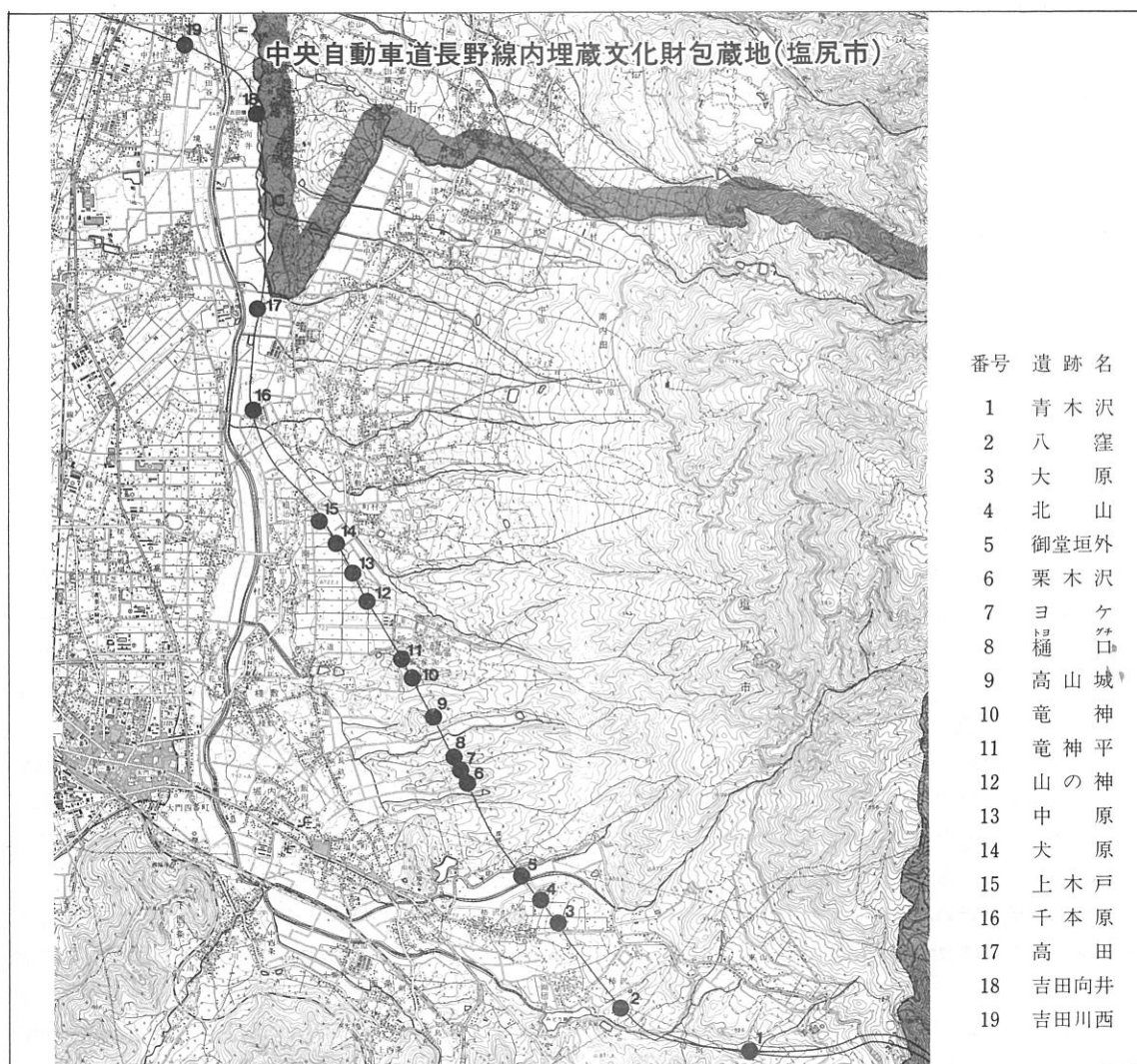


埋文から 昨年の後半から塩尻市内の発掘調査が始まり、59年度は9遺跡の調査が予定されている。当初心配された発掘作業員も塩尻市・松本市当局や各種団体の御協力などによって、予定されていた人員も順調に集まり、発掘開始にむかって着々と準備している。しかし、遺跡が山麓に位置していることなどから通勤、資材運搬などに問題もあり、今後一つ一つ解決をして順調に発掘調査ができるようにと努力している。

調査遺跡は「長野県史」の遺跡地名表などにも掲載されているように先土器時代から中世の広範囲にまたがり、調査研究員は各種の参考文献にあたり、予備知識を得ている。特に広丘吉田は、倭名類聚抄にある筑摩郡の「良田郷」の一角にあたると思われるので、それらの方面からも研究してゆくことも必要となっている。発掘が開始されると例年のことであるが、多忙の毎日となるであろう。

あとがき 長野県内で本年度の埋蔵文化財発掘届が95件を数え、発掘調査に当たっている市町村教育委員会の方々、研究者、学校の先生方の御苦労は大変のことと思います。それに3月一杯で報告書を作製するので、休日返上で血の滲む毎日だろうと推察されます。それら報告書を当センターに恵贈いただいておりますが、図書室に県内報告書のコーナーを設けて、保存・活用できるようにしております。

なお、センターの蔵書数が、この2月まで、4800冊をこえました。これら貴重な図書を有意義に活用し、研究者のみなさんに御協力をさせていただくために、図書目録を編集しております。そして今後とも県内外の図書を収集して充実をはかりたいので、日頃から関心をもって資料をいただいている諸機関に厚くお礼を申し上げるとともに、一層の御支援と御利用をお願いいたします。



埋文から 昨年の後半から塩尻市内の発掘調査が始まり、59年度は9遺跡の調査が予定されている。当初心配された発掘作業員も塩尻市・松本市当局や各種団体の御協力などによって、予定されていた人員も順調に集まり、発掘開始にむかって着々と準備している。しかし、遺跡が山麓に位置していることなどから通勤、資材運搬などに問題もあり、今後一つ一つ解決をして順調に発掘調査ができるようにと努力している。

調査遺跡は「長野県史」の遺跡地名表などにも掲載されているように先土器時代から中世の広範囲にまたがり、調査研究員は各種の参考文献にあたり、予備知識を得ている。特に広丘吉田は、倭名類聚抄にある筑摩郡の「良田郷」の一角にあたると思われるので、それらの方面からも研究してゆくことも必要となっている。発掘が開始されると例年のことであるが、多忙の毎日となるであろう。

あとがき 長野県内で本年度の埋蔵文化財発掘届が95件を数え、発掘調査に当たっている市町村教育委員会の方々、研究者、学校の先生方の御苦労は大変のことと思います。それに3月一杯で報告書を作製するので、休日返上で血の滲む毎日だろうと推察されます。それら報告書を当センターに恵贈いただいておりますが、図書室に県内報告書のコーナーを設けて、保存・活用できるようにしております。

なお、センターの蔵書数が、この2月まで、4800冊をこえました。これら貴重な図書を有意義に活用し、研究者のみなさんに御協力をさせていただくために、図書目録を編集しております。そして今後とも県内外の図書を収集して充実をはかりたいので、日頃から関心をもって資料をいただいている諸機関に厚くお礼を申し上げるとともに、一層の御支援と御利用をお願いいたします。